

## 第2回碧南市まなびさぽーと資金支給審査会 会議録

日時

令和2年10月20日（火）午前10時00分～午前11時00分

場所

碧南市役所2階 会議室1

出席者及び欠席者

- (1) 出席者 碧南高等学校長 伊豫田祥子、  
新川中学校PTA会長 角谷健一郎、  
碧南市主任児童委員代表 鈴木政枝  
南中学校長 川隅義孝、  
中央中学校長 小島真由子  
学校教育課長 小澤徹
- (2) 事務局職員 教育長 生田弘幸、教育部長 岡崎康浩、庶務課長 堀田葉子、  
中央小学校教頭 杉浦道文、庶務課長補佐 亀島有香、  
庶務課主事 杉浦涼太
- 傍聴者 0人

会議内容

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議題
  - (1) 令和2年度まなびさぽーと中学生の認定について
  - (2) 令和2年度まなびさぽーと中学生の表彰式について
  - (3) まなびさぽーと高校生の審査基準について
- 5 その他
- 6 閉会

議事の要旨

- 1 開会
- 開会を宣言。

2 教育長あいさつ  
(教育長のあいさつ)

3 会長あいさつ  
(会長のあいさつ)

4 議題

(1) 令和2年度まなびさぽーと中学生の認定について  
事務局から資料1により募集要領の説明。  
選考委員長から選考方法、選考理由及び応募状況等の報告。

<意見・質疑>

会長：それでは、説明が終わりました。ご意見等ありましたら、お願いします。

委員：今年度は最優秀賞無しとのことです、審査の段階で該当なしにするにあたって話題に上がったことはありますか。

事務局：今回は研究期間が短かった中で理科の学習を生かした作品が多くあったのですが、再実験や深めるという段階で考えると今までの最優秀賞と比べて、今年度期間が短いからと審査基準を変えないよう配慮した上でよく審査した結果、最優秀に至るものはなく、優秀賞2点、準優秀賞2点の選出となりました。

事務局：テーマ、研究内容は同じものが全国でどこかで行われたり真似たり、過去の研究と照らし合わせていると聞きましたが、どのように独自の研究だと区別しているのですか。

事務局：テーマに関しては話題性で似たものは出てくるのですが、個々の出発点やアプローチで工夫が見られ、同じテーマの中でも個性を出して独自性があらわれているので、似通っていても区別して審査しています。

委員：テーマを自分で考えて進めていくのは自分で進めて完成するまでに先生からのアドバイスはあるのですか。

事務局：テーマはまず子供が考えますが、理科教員が一人ひとり相談活動をして実験を進めています。1～3年生の発達段階があるので、1年生には先輩はこんな研究をしたよと示します。2年生3年生は経験が活きてこういう研究がしたいというのが見えてきます。理科教員が個々、グループと話して進めています。

委員：夏休みに何日か理科室を開放して、そこに理科教員がいて、研究困っている事、先が見えなくなって登校した子にアドバイスし、ケアをしながら研究を進める形

をどこの学校もとっているのではないでしょうか。

会長：ありがとうございました。各賞について、承認して頂けるということでおろしいでしょうか。

委員全員：<異議なし>

審議の結果、承認された。

(2) 令和2年度まなびさぽーと中学生の表彰式について  
事務局から資料2により説明。

<意見・質疑>

特になし

審議の結果、承認された。

(3) まなびさぽーと高校生の審査基準について  
事務局から資料3により説明。  
<意見・質疑>

委員：3.5という基準を3.5程度にして各学校に問い合わせて頑張っていると確認できる子は3.4でも再考できたら・・・という曖昧なのは難しいですかね。

事務局：頑張っているという程度を何を基準に判断するか、また各学校に事務負担を増やしてしまいます。独立行政法人の基準は、3.5以上を明確にしているのではっきりした基準があったほうが良く、本人には認定通知で3.5未満になったら継続認定できないので学業に励む旨を通知しています。0.1下がるのは一教科で1下がったくらいなので現状のまましっかり基準があったほうが良いと考えています。

委員：3.4の子をどうしてもかわいそうに思ってしまう。3.4を救済数字として3.4になつたら1年猶予してこれ以上下がったら取り消しになるよと警告して3.4の子のみでも救済できたら。

事務局：ご意見としていただき今後も検討を続けていきたい。

会長：それでは、次年度のまなびさぽーと高校生の基準は据え置きのままでし、今後も様子を見つつ検討を続けていただきます。

8 その他

9 閉会

閉会を宣言。